

水稻の湛水土壌中直播栽培におけるヒメトビウンカ

(*Laodelphax striatellus* (Fallén))の防除対策

直播種子に処理した殺虫剤の効果

渡邊丈夫・山浦浩二

湛水直播栽培では、移植栽培と比較して本田での栽培開始期が早いため、移植栽培より早期にヒメトビウンカの飛来を受け、縞葉枯病の早期感染が多い。そこで直播種子に殺虫剤を処理することによって、ヒメトビウンカの初期防除を行う方法を検討した。

1. 殺虫剤希釈液に種子を浸漬処理する方法を検討したが、十分な効果が認められた薬剤はなかった。
2. 湛水直播用種子に過酸化カルシウムをコートする際に、種々の剤型の殺虫剤を過酸化カルシウム層の間に挟むようにして種子コートしたところ、イミダクロプリド 10%水和剤の種子重に対する約 6%のコートが、葉害もなく、殺虫効果が高かった。
3. 本田栽培で過酸化カルシウムとイミダクロプリド 10%水和剤を 3 層コートした籾を播種して、ヒメトビウンカに対する防除効果を検討したところ、長期間にわたって防除効果が認められた。

キーワード:イネ,害虫防除,殺虫剤,種子処理,湛水直播,ヒメトビウンカ